

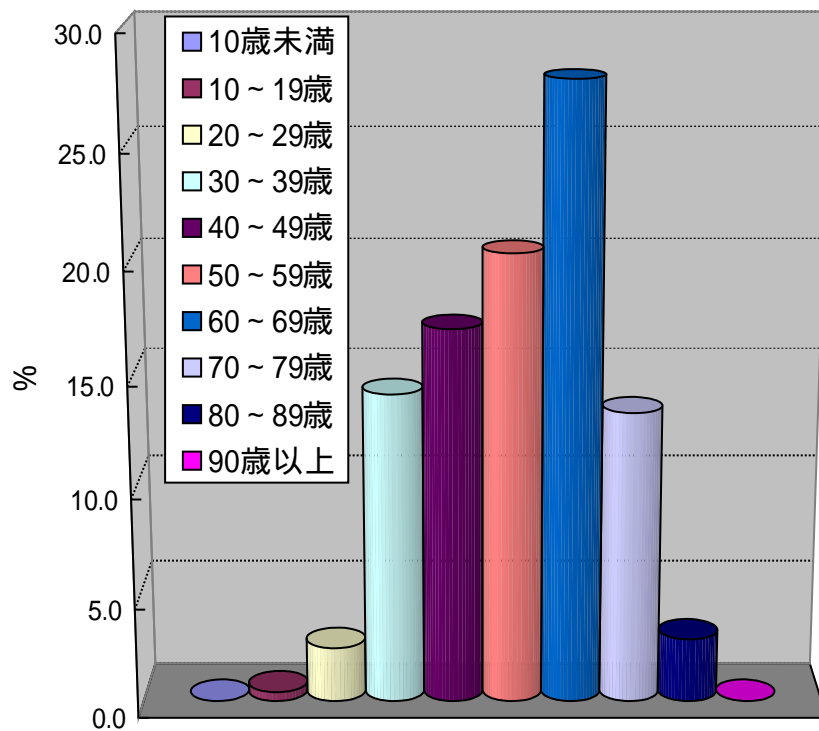
平成22年6月実施 動物愛護に関する意識調査(最終) 結果

対象世帯：410世帯(区内会に加入しており今回の調査票を配付した世帯)

回答世帯：241世帯(対象世帯の58.8%、初回調査より11.9ポイント増)

質問1 お答えいただいている方の年齢層を教えてください。

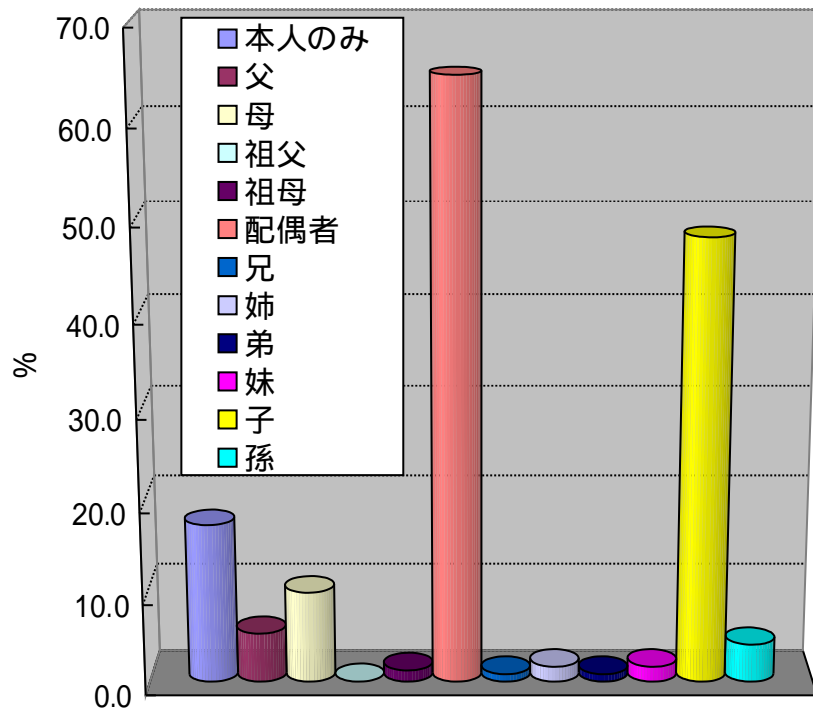
10歳未満	0(0.0%)	50~59歳	49(20.3%)
10~19歳	1(0.4%)	60~69歳	67(27.8%)
20~29歳	6(2.5%)	70~79歳	32(13.3%)
30~39歳	34(14.1%)	80~89歳	7(2.9%)
40~49歳	41(17.0%)	90歳以上	0(0.0%)



調査結果から、初回調査結果と同様、60歳台の方からの回答が最も多く、主に30~70歳台の、幅広い年齢層のみなさんから回答をいただきました。

質問2 お答えいただいている方以外の家族構成を教えてください。(複数回答可)

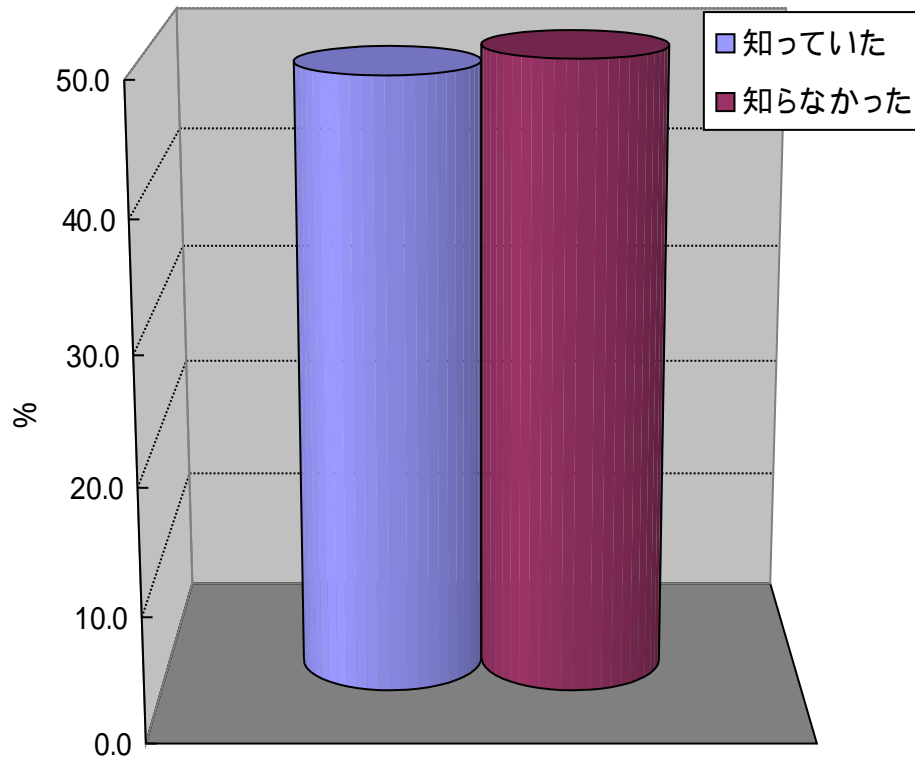
本人のみ	42 (17.4%)	兄	2 (0.8%)
父	13 (5.4%)	姉	4 (1.7%)
母	24 (10.0%)	弟	2 (0.8%)
祖父	0 (0.0%)	妹	4 (1.7%)
祖母	3 (1.2%)	子	116 (48.1%)
配偶者	156 (64.7%)	孫	10 (4.1%)



調査結果から、初回調査結果と同様、独身や一人暮らしのみなさんからの回答が少なく、主に子どもを持つ世帯主やその配偶者のみなさんから回答をいただきました。

質問3 昨年12月から、腕章を付けたサポーターがこの地区を随時巡回し、犬のフン持ち帰りの啓発チラシを配付する等の活動を実施していましたが、ご存知でしたか。

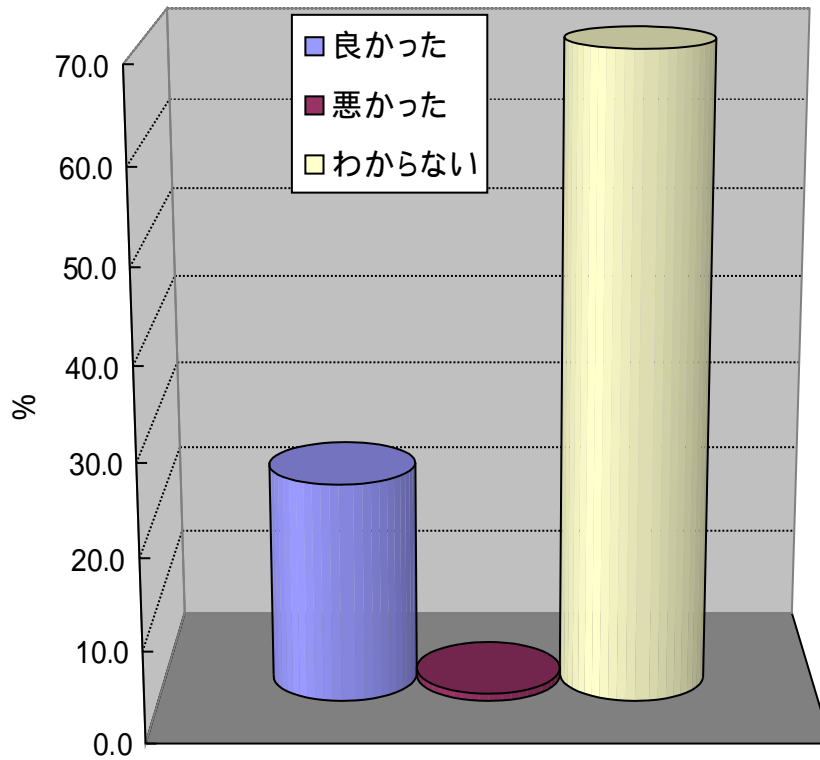
知っていた 117(48.5%) 知らなかった 120(49.8%)



調査結果から、わずかながら 知らなかった、が 知っていた、を上回る結果となりました。

質問4 サポーターの活動はいかがでしたか。

良かった	58(24.1%)	わからない	168(69.7%)
悪かった	2(0.8%)		



調査結果から、およそ7割の世帯が わからない、と回答し、極めて少数ながら 悪かった、という回答もありました。

質問5 それは、なぜですか。

(良かった理由)

- ・ 公園や道、植え込みがきれいになったから
- ・ 敷地内のねこフン害が減ったから
- ・ フン放置が少なくなったから
- ・ 街がきれいになったから
- ・ 安心して屋外に出られるようになったから
- ・ 飼い主のマナーが良くなったから
- ・ 飼い主の意識向上が期待できるから
- ・ 誰かが見ているという、飼い主の心の変化を感じるから
- ・ サポーターがフンを拾っていたから
- ・ 声をかけてもらえたから
- ・ チラシ配付時説明があったから
- ・ 一生懸命な活動を見かけたから
- ・ ペットと共に生活する上での最低限のマナーを自覚させるため

(悪かった、わからない理由)

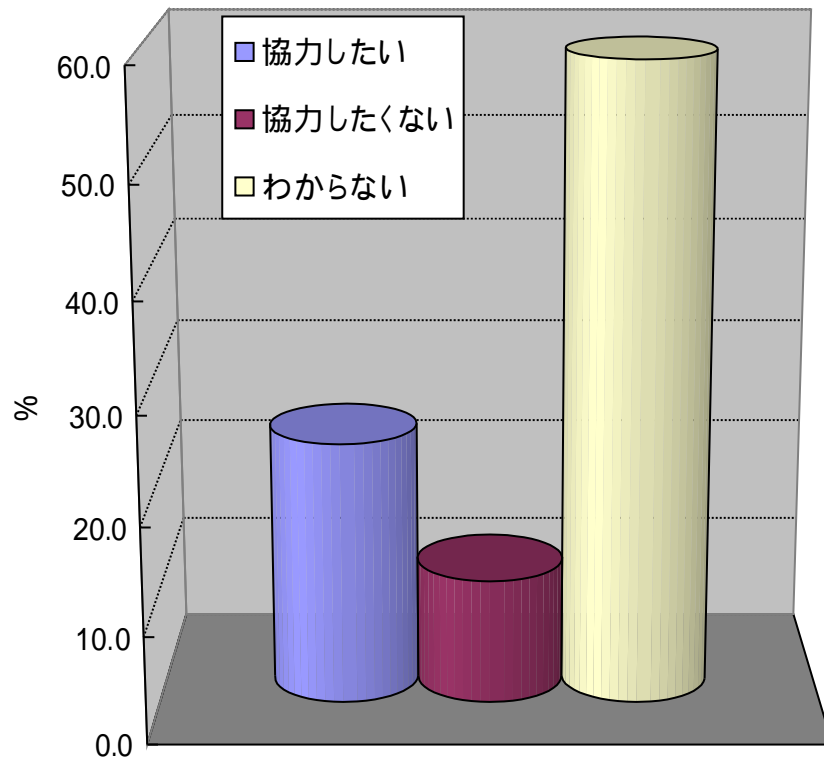
- ・ 活動を知らなかったから
- ・ 活動を見かけなかったから
- ・ 活発な活動とはいえないから
- ・ まだフン放置がたくさん見られるから
- ・ 結果が見えないから
- ・ 転居してきたばかりだから
- ・ 実態がわからないから
- ・ 感じの悪いサポーターも中にはいたから
- ・ 同じサポーターにチラシを数枚押し付けられたから
- ・ 活動の内容や時間に工夫が必要であると思うから

調査結果から、良かったと感じる理由には、お住まいの近辺の環境がきれいになったと実感しているものが多く、悪かった、わからないと感じる理由には、サポーターの活動する姿を目にしていなかったことや、それに起因するものが多いことがうかがえます。

サポーターのみなさんの活動範囲や時間帯に偏りがある可能性が示唆されます。

質問6 サポーターとして、あるいはサポーター活動の補助として、今後協力したいと思いますか。

協力したい	59(24.5%)	わからない	142(58.9%)
協力したくない	28(11.6%)		



調査結果から、6割近くの方が「わからない」と答える結果となりました。
また、「協力したくない」と答えた方が初回調査結果と比較して倍近くとなり、むしろ「協力したい」と答えた方の割合は若干減少してしまいました。

質問7 それは、なぜですか。

(協力したい理由)

- ・ 安心な町内会のため
- ・ きれいな街にしたいから
- ・ 住み良い町内にしたいから
- ・ 地域環境汚染防止のため
- ・ フン放置を見るのが嫌だから
- ・ まだフン放置が多いから
- ・ 我が家同様犬のフンを持ち帰って欲しいから
- ・ まだマナーの悪い者がいるから
- ・ あまりにもマナーの悪い者が多いから
- ・ 地域にペットが受け入れられるためにマナーを守って欲しいから
- ・ 継続活動しているのがわかれば飼い主のモラルも良くなってくると思うから
- ・ 飼い主の意識を変えたいから
- ・ 地区に住む一員だから
- ・ 人との会話が増えたから

(協力したくない、わからない理由)

- ・ 仕事が優先だから
- ・ 多忙なので
- ・ 家族の世話で手が離せないから
- ・ 時間の都合がつかないから
- ・ 家庭の事情や体調等によるから
- ・ 体調不良だから
- ・ 体力によるから
- ・ 高齢のため
- ・ 余裕がないから
- ・ 動物が好きではないから
- ・ 動物が苦手だから
- ・ 不在がちだから
- ・ 犬ねこを飼っている人がやればいいと思っているから
- ・ 飼い主が心掛ければいいことなので
- ・ 活動内容がよくわからないから
- ・ 実態がわからないから
- ・ 犬を飼っておらず、フン放置現場を見ると激怒してしまうから
- ・ 役員でない住民のサポーターは飼い主に嫌がられるから
- ・ 活動成果を実感していないから

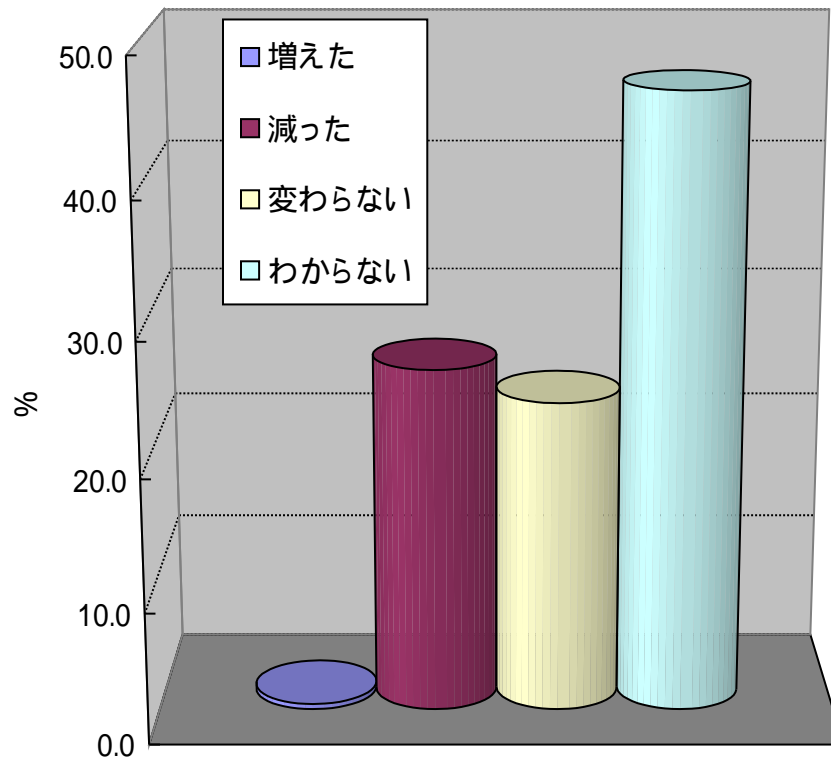
調査結果から、協力したい理由には、お住まいの地区の美化に積極的に関わっていきたいという住民意識に起因するものが多く、協力したくない、わからない理由には、多忙であることや活動するための体力に関する不安が多く見受けられます。

また、本事業が開始されておよそ半年が経過しますが、サポーターの活動内容がわからない、といった意見も多く、未だ活動が目に見えていない実態がうかがえます。

サポーターのみなさんの活動範囲や時間帯に、より一層の工夫が必要であると思われる。

質問8 サポーター活動によって、犬（飼い主の有無を問わず）による迷惑や被害に変化はありましたか。

増えた	1(0.4%)	変わらない	57(23.7%)
減った	63(26.1%)	わからない	112(46.5%)



調査結果から、4分の1をこえるみなさんが迷惑や被害の減少を感じていることがわかりました。

サポーター活動に一定の成果があったことがうかがえます。

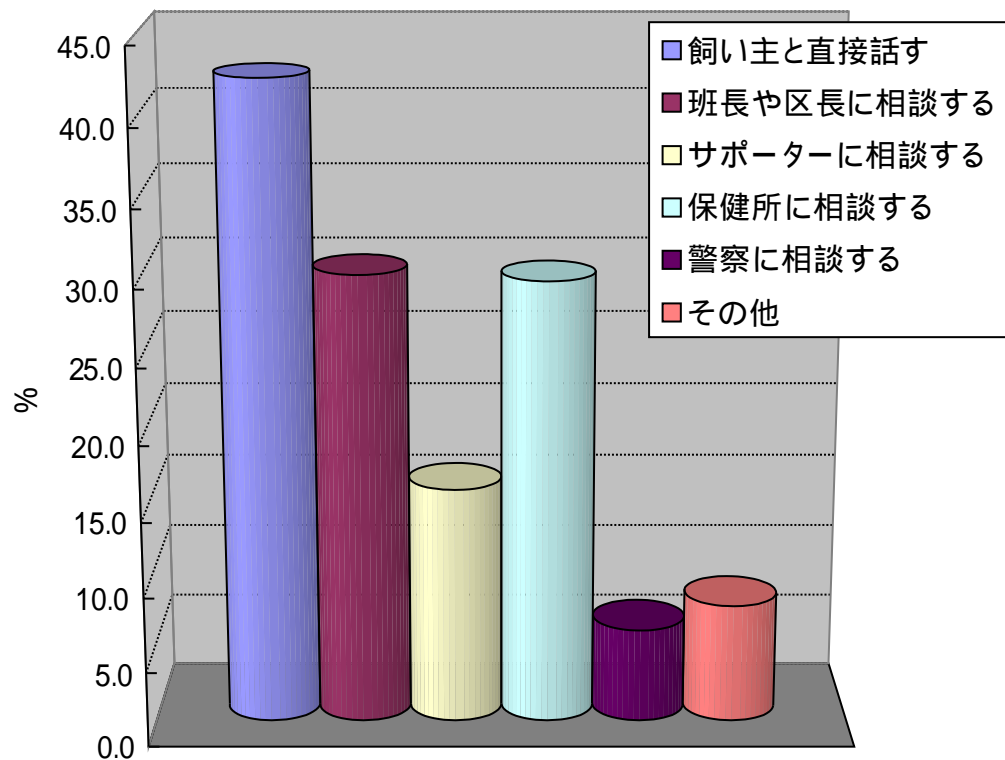
しかし一方で、7割をこえるみなさんは迷惑や被害の減少を感じておらず、サポーターのみなさんの活動範囲や時間帯に加え活動内容にも、より一層の工夫が必要であると思われます。

質問9 飼い犬によって迷惑を受けたり被害があった場合、どうしますか。(複数回答可)

飼い主と直接話す	102(42.3%)	保健所に相談する	71(29.5%)
班長や区長に相談する	72(29.9%)	警察に相談する	15(6.2%)
サポーターに相談する	38(15.8%)	その他	19(7.9%)

(その他の内容)

- ・ 飼い主不明のため我慢する
- ・ 近所づきあいがあるので我慢する
- ・ 相談先不明のため我慢する
- ・ 飼い主の性格等、状況により相談先は変わる
- ・ フン放置防止の措置を講ずる
- ・ 相談したくても誰がサポーターなのかわからない



調査結果から、 飼い主と直接話す、が 10 ポイント近くの増加、 班長や区長に相談する、については 20 ポイント近い増加となりました。

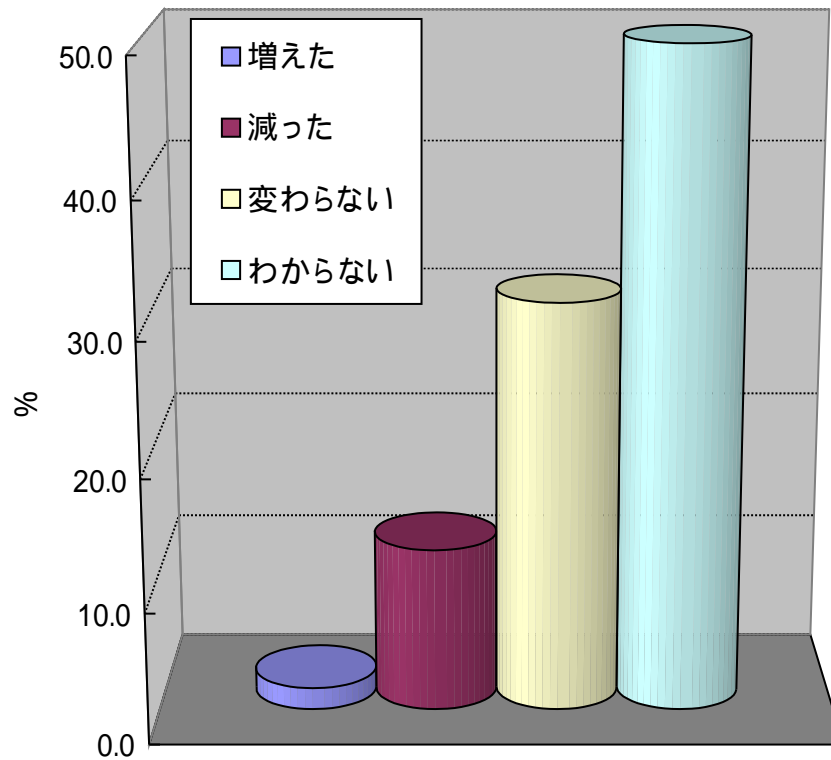
また、 サポーターに相談する、についても 15%以上の方が相談先として挙げる結果となりました。

初回調査結果では第三者に解決を求める傾向がうかがえましたが、今回の調査結果では、それでも地域で問題を解決しようとする傾向の増加が見られ、住民の意識に若干の変化が現れていることがうかがえます。

なお、減少が見られたものの、いまだに「ご近所づきあい」を考え我慢する、という意見や、「相談したくても誰がサポーターなのかわからない」という意見があることから、地域における相談窓口としてのサポーターの役割が今後さらに重要となるべきであると思われます。

質問 10 サポーター活動によって、ねこ（飼い主の有無を問わず）による迷惑や被害に変化はありましたか。

増えた	4(1.7%)	変わらない	75(31.1%)
減った	30(12.4%)	わからない	120(49.8%)



調査結果から、迷惑や被害の減少を感じているのはおよそ8分の1のみなさんに留まっており、サポーター活動について、質問8にあった犬による迷惑等の減少ほどは奏功していないことがうかがえます。

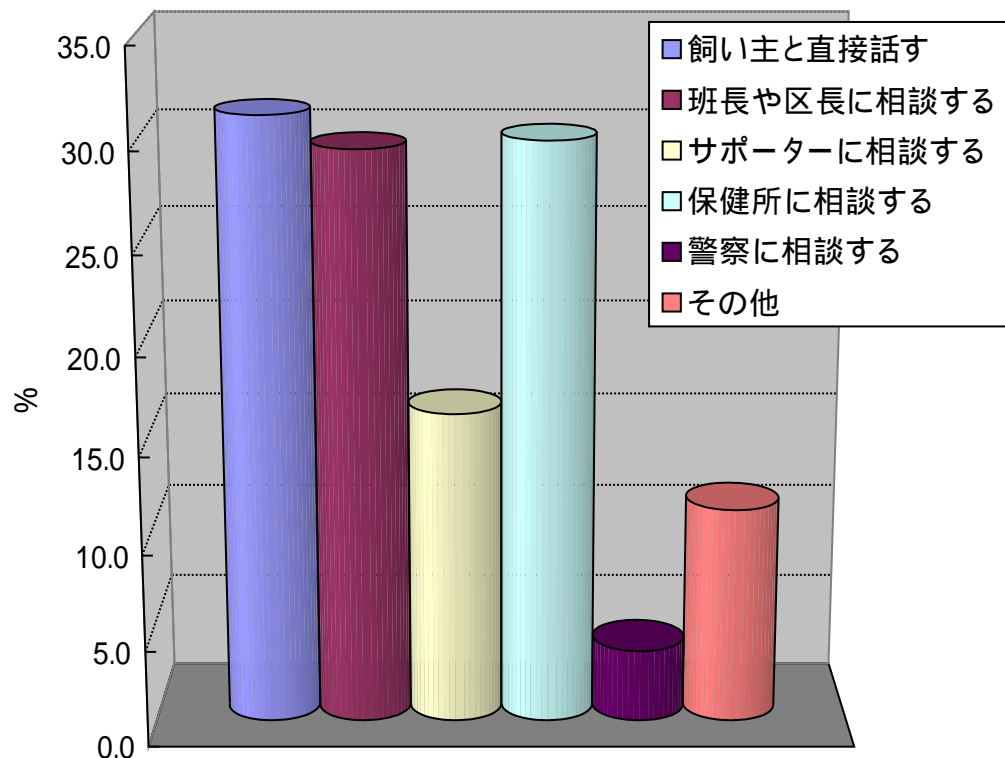
サポーターのみなさんのねこに対する活動内容にも、より一層の工夫が必要であると思われます。

質問 11 飼いねこによって迷惑を受けたり被害があった場合、どうしますか。(複数回答可)

飼い主と直接話す	75(31.1%)	保健所に相談する	72(29.9%)
班長や区長に相談する	71(29.5%)	警察に相談する	9(3.7%)
サポーターに相談する	39(16.2%)	その他	27(11.2%)

(その他の内容)

- ・ 飼い主が分かれば直接話す
- ・ 飼い主不明の場合は区長に相談する
- ・ 飼い主不明のため我慢する
- ・ 飼い主の性格等、状況により相談先は変わる
- ・ 相談先不明のため我慢する
- ・ 敷地への侵入防止の措置を講ずる



調査結果から、班長や区長に相談する、が20ポイント近い増加となりました。また、サポーターに相談する、についても15%以上の方が相談先として挙げる結果となりました。

初回調査結果では第三者に解決を求める傾向がうかがえましたが、今回の調査結果では、質問9にあった犬の場合同様、それでも地域で問題を解決しようとする傾向の増加が見られ、住民の意識に若干の変化が現れていることがうかがえます。

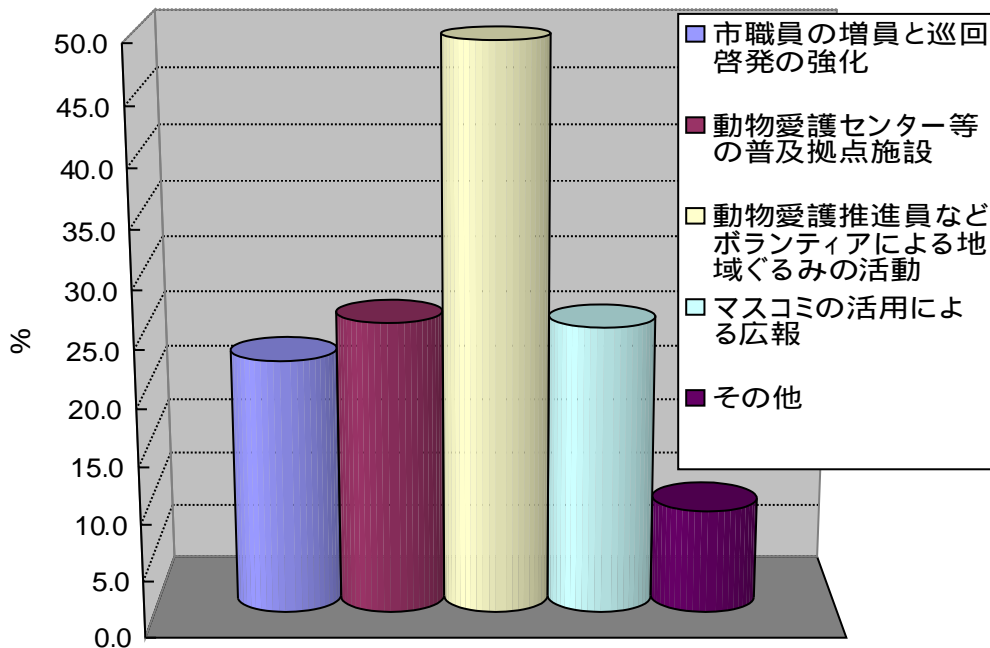
なお、いまだに「ご近所づきあい」を考え我慢する、という意見や、「相談したくても誰がサポーターなのかかわからない」という意見があることから、地域における相談窓口としてのサポーターの役割が今後さらに重要となるべきであると思われます。

質問 12 いわき市民がより一層動物愛護に関心を持ち、モラルやマナーを大切にする心を大きくするためには何が必要だと思いますか。(複数回答可)

市職員の増員と巡回啓発の強化	54(22.4%)
動物愛護センター等の普及拠点施設	62(25.7%)
動物愛護推進員などボランティアによる地域ぐるみの活動	119(49.4%)
マスコミの活用による広報	61(25.3%)
その他	22(9.1%)

(その他の内容)

- ・ 飼い主の自覚と責任
- ・ 飼い主のモラル、マナー
- ・ 動物を飼う人の心からの愛情
- ・ その動物を最初に飼う人が責任を持つこと
- ・ 個人の道徳心向上
- ・ 自己改革
- ・ 飼い主によるサークルを作り、自ら活動に参加する
- ・ ペットショップなどにモラルなどの広報資料を配付させる
- ・ 国がペット販売業者を規制する法律を作る
- ・ ペット飼育税の創設、安易なペット飼育の抑制



調査結果から、初回調査結果と同様、動物愛護推進員などボランティアによる地域ぐるみの活動、が最も多い結果となりました。

また、初回調査結果と同様、複数選択式の回答としましたが、いずれの選択肢についても増加がみられました。

これらのことから、地域で問題を解決しようとする傾向の増加に加え、住民の動物愛護に関する意識、関心の高まりがうかがえます。

なお、その他、のうち少数ではありますが、ペットショップなど販売提供する立場からの適正飼養の啓発や飼い主によるサークル活動など、参考となる意見も寄せられました。

質問 13 最後に、今回の意識調査やサポーターの活動を含め、ご意見等あればご自由にお書きください。

(主な意見)

関心がない

サポーター活動にも限界があるので飼い主の意識が大切である。

ペットに対して知識の浅いサポーターがボランティア活動をするのは行政の怠慢が招いたことであり、責任は政治にある。

このアンケートでサポーターの存在を知ることができた。

今後も飼い主のマナーが良くなるよう頑張りたい。

個人的に注意をすることが難しい世の中になっているので、犬、ねこを飼っている全ての方に、役所や保健所がマナーの徹底を図って欲しい。

放置フンが多すぎるのは飼い主のマナーに問題があると思うので、飼い主の意識改善の方法を探すべきである。

啓発チラシをもっと多く配布したり、各隣組の班長さんにもサポーターになってもらうべきである。

公共の場所でのマナー違反は、飼い主の責任と意識によって少なくなると思うが、常識では考えられない飼い主はほんの一部の人だと思うので、そのような方へは、よほどの対策を取らない限り非常識な飼い主が減ることはないと思う。

飼ってる人がちゃんと気をつけて常識をもっていけばサポーターの方に時間をとらせず迷惑をかけずに済む。

目に見える場所には放置しないが、植え込みに投げ入れたりするので、本人の意識の向上が必要である。

子犬や子ねこを捨てないよう、モラルの向上を広報などで常時啓発すべきである。

始めたら長く続けて活動すること、他の場所でも行うこと、それも犬の散歩の多い朝や夕方にやるべきである。

このような意識調査は大切なことだと思う。

犬のフン、ねこのフンがなくうれしい。

犬の放し飼い(特に夜間)があり、困っているので何とかしてほしい。

いわき市動物の愛護及び管理に関する条例の定めにより、飼い犬の放し飼いは原則、禁止されています。

放し飼いとならないように飼い主のみなさんはきちんと飼いましょう。

白土公園に子ねこを2匹捨てていった人がいて、それを子供達が持ち歩き、大変な騒ぎになっていた。

1匹はそのまま死んでいたということ。

こういう場合は、どこに相談すればいいのか。

動物の遺棄(捨てること)は犯罪です。

明らかに捨てられたと思われる場合は最寄りの警察署へご相談ください。

なお、飼い主の不明な迷いねこ等については引取りを行っておりますので、保健所生活衛生課までご相談ください。

各個人が注意し、改善が見られない時は行政から再び注意し、それでも改善

が見られない方へは罰金を課すなどすべきである。（年配の方が多いように思う）

市職員やアルバイトの中で各課より交代で巡回したらどうか。

迷惑な犬、ねこなどは写真に撮って広報に載せ、捕獲などすれば、飼い主がいるのなら捕獲されないよう気を付けると思う。

飼い主は、愛情の余り多少身勝手になることが多いように思う。

他の人の心も考えるべき。

皆が同じ考えではない事、公共の場でのエゴイズムは少し控えるよう、自分を磨くことが、皆で生きる為には必要ではないか。

犬、ねこのフンなどで環境が悪化し伝染病などの発生が心配される。

袋は持っていてフンを拾って帰らない者もいるようだ

活動が区内会役員と限定され、町民の活動に対する理解と協力があまりなく、広報などが少ないためか、この活動が知られていないようだ。

個人的には犬のうるさい吠え声や庭にフンをする外飼いねこに困っているが飼い主が近所であり我慢している。

飼い主のマナーアップを望む。

行政が担当して研修などを企画して欲しい。

特にねこの飼い主の意識改革を願う。

犬の鳴く声がうるさいが、飼い主はうるさいと感じないらしい。

ねこがフンを庭にちょいちょいして行くが、どうも飼い主は夜間放すらしい。

犬、ねこの飼い主にはしっかりとしたマナーを望む。

地域ごとに地域住民同士でふれあいながらモラルやマナーを問いかけあうのが一番説得力があるのではないかと思う。

その意味では愛谷町のサポーター発足は素晴らしいことだと思う。

サポーターの活動は昨年12月に発足したという事だがどういう活動しているのか？

活動している姿を一度も見た事がない！！

毎日付近の犬の啼き声に困っていたが、アンケート用紙が配布されたと同時に静かになった。

一般的に町内・市民の環境美化意識は欠けていると思う。

例えば、日常の生ごみ等についても、他のごみとの分別もなっていない。
